



## 環境影響評価方法書を公告・縦覧しています 説明会を開催します

令和7年9月の第4回保倉川放水路環境調査委員会では、保倉川放水路事業による環境影響について、今後、住民意見を踏まえた対応等により放水路に関連する土地改変面積(\*1)が増加した場合にも対応できるよう、新潟県環境影響評価条例に即した手続きを実施していくこととし、条例に基づく環境影響評価方法書(案)を報告しました。

現在、高田河川国道事務所では方法書の縦覧が可能です。また環境影響評価手続き、環境影響評価方法書等について説明会を行い、地域住民の方々から環境保全の見地からご意見を伺います。

\*1新潟県環境影響評価条例：放水路は土地改変面積50ha以上が対象

### 方法書の説明会

日時：令和8年3月10日(火)  
18:30~  
場所：頸城地区公民館南川分館

日時：令和8年3月12日(木)  
18:30~  
場所：上越市カルチャーセンター

日時：令和8年3月14日(土)  
15:00~  
場所：ユートピアくびき希望館

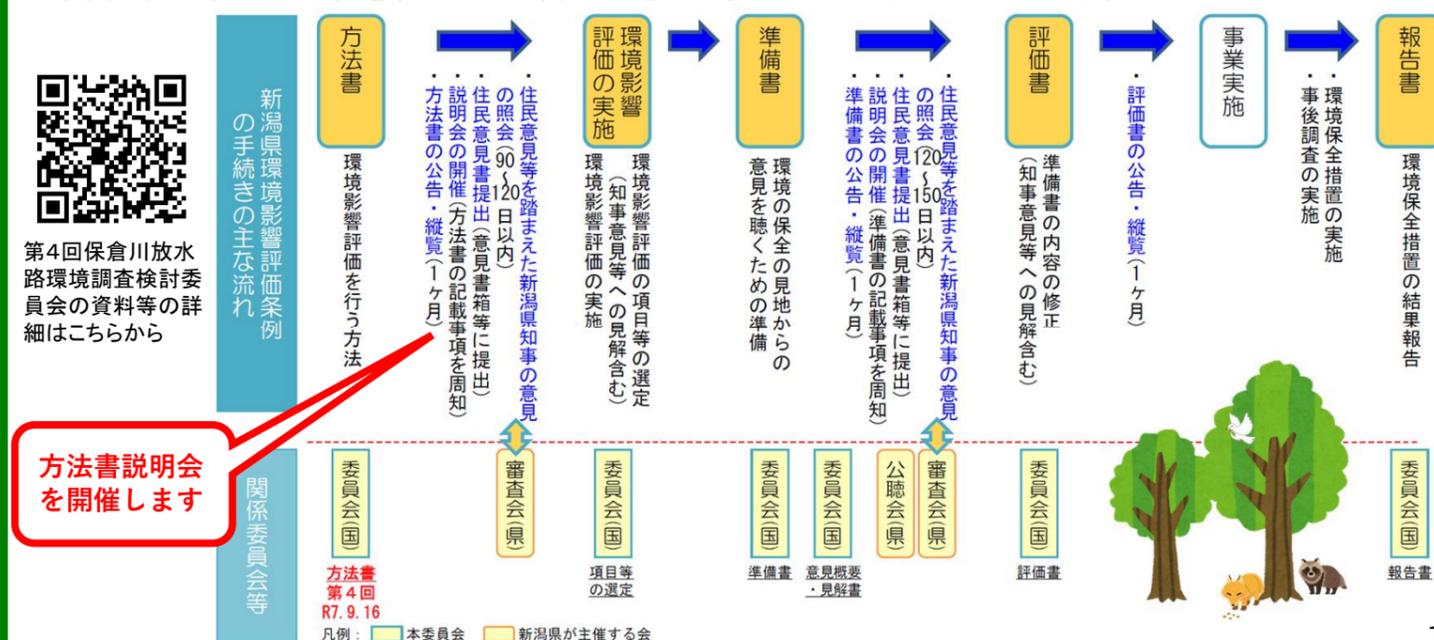
\*3会場いずれも同一内容です  
\*事前申し込み不要です

### 方法書の縦覧

期間：令和8年2月24日(火)~令和8年3月23日(月)  
場所：高田河川国道事務所 1階(上越市南新町3番56号)  
上越市役所 第二庁舎 2階 環境政策課(上越市木田1-1-3)

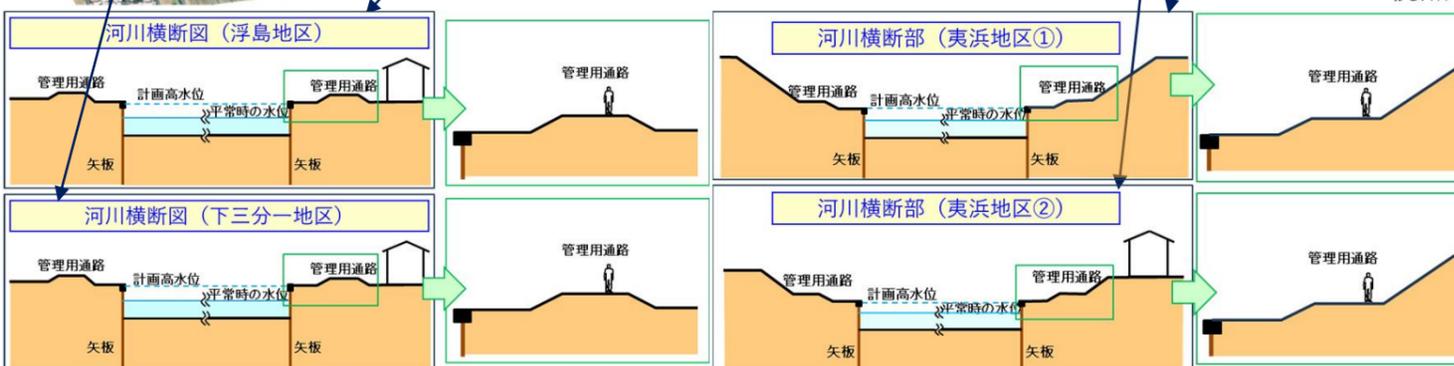
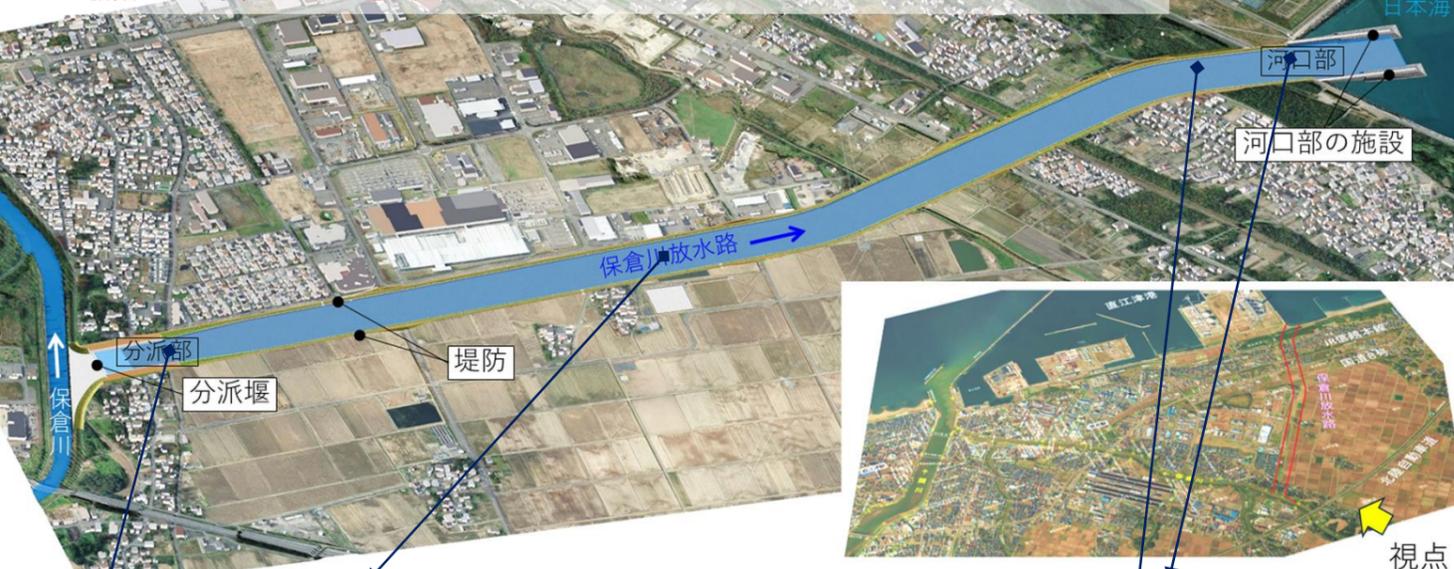
### 【環境影響評価の手続き】

■新潟県環境影響評価条例の手続きに沿って、委員の助言を得ながら方法書、準備書、評価書を作成し、関係行政機関や住民等からの意見を求めつつ、環境に配慮した事業となるよう進めていきます。



## 保倉川放水路全体図と河川横断面図

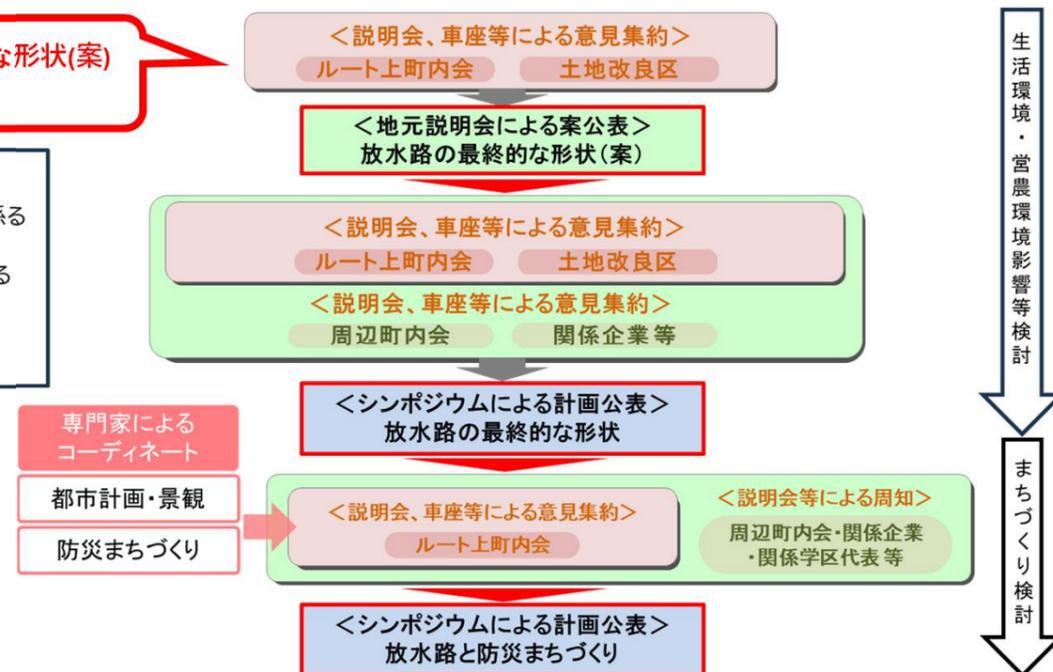
- ◆保倉川放水路は、保倉川から分派し(分派部)日本海に洪水を排水します。
  - ◆分派部には整備計画目標流量900m<sup>3</sup>/sを分派させるための分派堰を設けます。
- ※保倉川放水路の詳細は、橋梁等も含めて現在検討中であり、詳細な測量、設計、検討や関係機関との協議により最終的な形状を決定します。



### 地域の意見の聞き取り方法(案)

現在、放水路の最終的な形状(案)の検討を進めています

- 凡 例
- 放水路ルートに係る地域
  - 放水路整備に係る周辺地域
  - 流域全体



# 第4回保倉川放水路環境調査検討委員会

開催日時：令和7年9月16日(火) 13時～15時

開催場所：高田城址公園 オーレンプラザホール

- 内容：
- 保倉川放水路環境調査検討委員会 規約改正
  - 保倉川放水路事業に係る環境影響評価手続き
  - 前回(第3回)委員会で頂いたご意見とその対応
  - 関川水系保倉川放水路事業(仮称)環境影響評価方法書(案)
  - 保倉川放水路事業に係る海風の影響について
  - 今後の進め方(案)



会場全体



小池委員長挨拶



高田河川国道事務所長挨拶

| 委員氏名   | 所属・役職等                                  | 備考  |
|--------|-----------------------------------------|-----|
| 五百川 裕  | 上越教育大学大学院 学校教育研究科 教授                    | WEB |
| 春日 良樹  | 元妙高高原ビジターセンター 館長                        |     |
| 加藤 史訓  | 国土技術政策総合研究所 河川研究部 水環境研究官                |     |
| 小池 俊雄  | 国立研究開発法人 土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター センター長 | 委員長 |
| 高橋 卓   | 一般社団法人 上越環境科学センター 準職員                   |     |
| 田中 孝幸  | 国立研究開発法人土木研究所流域水環境研究グループ流域生態チーム 上席研究員   |     |
| 富永 禎秀  | 新潟工科大学 工学部 工学科 教授                       | WEB |
| 中村 雅彦  | 上越教育大学 名誉教授                             | ご欠席 |
| 細山田 得三 | 長岡技術科学大学 環境社会基盤工学専攻 教授                  | ご欠席 |

※一般傍聴：20名

敬称略、五十音順

# 保倉川放水路予定地周辺まちづくり検討

## 状況報告

令和6年11月に設立された『保倉川放水路治水対策・防災まちづくり検討部会』の第2回を令和7年9月に開催し「保倉川放水路の最終的な形状」の決定や「防災まちづくり」の計画決定に向けた流れや意見の聞き取り方法(案)、今後の進め方(案)についてご意見をいただきました。

高田河川国道事務所では現在「放水路の最終的な形状(案)」の公表に向け、検討を進めています。

開催日時：令和7年9月17日(水) 10時00分～12時00分

開催場所：ユートピアくびき希望館

- 内容：
- 前回(第1回)部会で頂いたご意見とその対応
  - 保倉川放水路の基本的な施設諸元
  - 治水対策、防災、まちづくりに関する地域の意見の聞き取り方法(案)
  - 今後の進め方(案)



会場全体



小池部会長挨拶

| 委員氏名   | 所属・役職等                                  | 備考  |
|--------|-----------------------------------------|-----|
| 小池 俊雄  | 国立研究開発法人 土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター センター長 | 部会長 |
| 小澤 広直  | 長岡工業高等専門学校 環境都市工学科 助教                   |     |
| 佐藤 翔輔  | 東北大学 災害科学国際研究所 准教授                      |     |
| 細山田 得三 | 長岡技術科学大学 環境社会基盤系 教授                     |     |
| 松川 寿也  | 長岡技術科学大学 環境社会基盤系 准教授                    |     |
| 松田 曜子  | 京都大学 防災研究所 巨大災害研究センター 准教授               | ご欠席 |
| 八木 智学  | 上越市 副市長                                 |     |
| 安田 浩保  | 新潟大学 災害・復興科学研究所 准教授                     |     |
| 山縣 耕太郎 | 上越教育大学 大学院 学校教育研究科 教授                   |     |

※一般傍聴：25名

敬称略：五十音順



第2回治水対策・防災まちづくり検討部会の資料等の詳細はこちらから

## 委員会での主なご意見

保倉川放水路の施工は長期間に及ぶため、施工の段階・進捗に合わせて評価を行うことが重要である。

環境影響評価は、専門的な内容になりがちであるため、住民の方がわかりやすく実感できるように心掛けて、意見を聴取することが望ましい。

環境保全措置は、環境影響を回避することが基本であるが、地域との調和を図り、景観、利用、生物多様性等の観点でより良い環境を創出しようとするのが重要である。

既設の他の放水路において、課題に対してどう工夫し、克服したかを調べ、その知見を活かして欲しい。分派や放水路河口部等の条件に着目し、保倉川放水路と類似した条件を有する既設放水路における現状を把握し、分析して欲しい。

本委員会と治水対策・防災まちづくり検討部会の間で連携し合いながら、地域住民の方にご理解頂けるように検討を進める必要がある。



## 【地元懸念事項に対する予測結果・評価】

開削による代表風速時の風力階級の変化(地上10.0m)

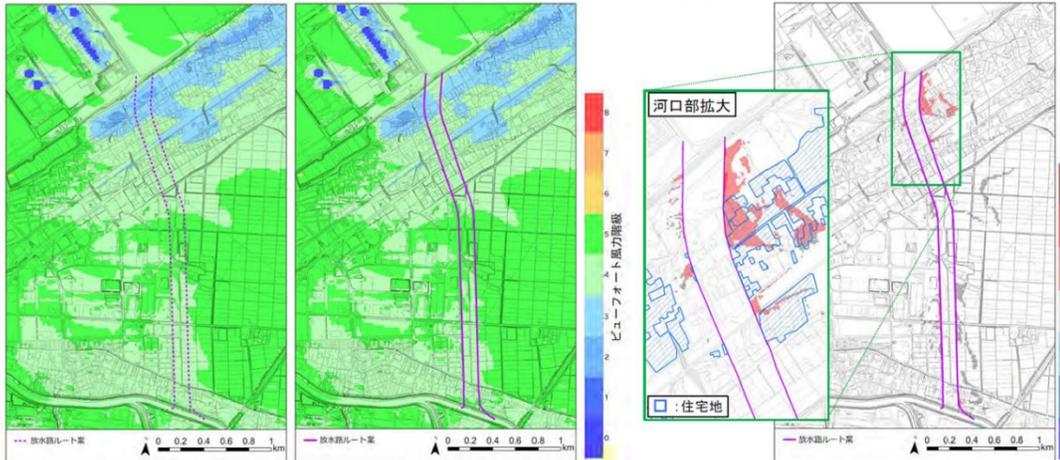
放水路整備前後において風速の影響を受ける範囲として抽出しました。

### 【予測解析結果】

○現況・放水路整備前

○現況・放水路整備後

○差分図



※代表風速は、R2年度、R3年度冬季(12月～2月)の観測データに基づき設定しており、最新のデータを用いた場合、若干、解析結果が変更される可能性がある。

■：風力階級が増加する範囲のうち、風速の変化が0.2m/s未満の箇所を示す ※放水路内は、着色の対象外とした ※住宅地は、令和5年度上越市都市計画基礎調査を参考に表示

## 第2回治水対策・防災まちづくり

### 検討部会での主なご意見

放水路の整備にあたり一番丁寧に考えなければならないのは集落が分断されてしまう点である。放水路事例を増やす中に、集落をまたいだ所で工夫して地域コミュニティを維持しているところも調べて欲しい。

放水路の話であることが分かるガリバーマップのネーミング、コミュニティFM(FMじょうえつ)の活用、インフルエンサーとの協力でSNSのチャンネルを増やすことを提案する。

津波に関するシミュレーションを住民の方に提示する際は、L2津波は最大規模を見積もっており、次の津波がこの規模になるとの誤解を生じないように情報提供する事が重要である。併せて、放水路により被害が広がると予想される所は、背後に砂丘があり比較的避難が容易な場所という事も説明し理解していただくをお願いしたい。

まちづくりや合意形成を図って来たヒントを得たいので、全国の最近の放水路整備事業でなるべく類似した事例を確認して欲しい。

主人公である住民の皆様が早くから関わるデザインとし、災害に強い豊かな地域づくりに自ら関わっていただけるプロデュース、コーディネートと一緒に進めていきたいと思う。



新発田川放水路 聖籠橋より下流右岸側(2025年8月撮影)



新堀川水門より下流側(2025年9月撮影)